

第6学年「理科」の学力向上のための方策

児童の実態（成果と課題の分析）

- 成果** ○ 科学的事象に対する関心が高い。
○ 実験や観察など、意欲的に取り組むことができる。
○ 日常生活から課題を見付け、予想を立てることができるようになった。
- 課題** ▼ 実験や観察から得られた結果から、何が分かったかを考察する力に欠ける。

指導の重点（身に付けさせたい力）

- ◇ 実験や観察の結果から、得られたことを考え、まとめる力。
- ◇ より妥当な考えをつくりだす力。
- ◇ 主体的に問題解決しようとする態度。
- ◇ 生命を尊重する態度。

具体的な改善策

- 実験や観察の前に、なぜその実験や観察をするのかを確認し、実験・観察の目的意識をしっかりとらせる。
- 実験や観察で得られた結果を端的にまとめられるよう、文章でなく箇条書きでまとめさせる。
- 学習したことを基に、動植物の生命や遺伝に関心をもたせる。

達成目標

- 〈物質・エネルギー〉 燃焼の仕組み、水溶液の性質、てこの規則性及び電気の性質や働きについての理解を図り、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付け、それらの仕組みや性質、規則性及び働きについて、より妥当な考えをつくりだす力や主体的に問題解決しようとする態度を養う。
- 〈生命・地球〉 生物の体のつくりと働き、生物と環境との関わり、土地のつくりと変化、月の形の見え方と太陽との位置関係についての理解を図り、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付け、それらの働きや関わり、変化及び関係について、より妥当な考えをつくりだす力や生命を尊重する態度や主体的に問題解決しようとする態度を養う。